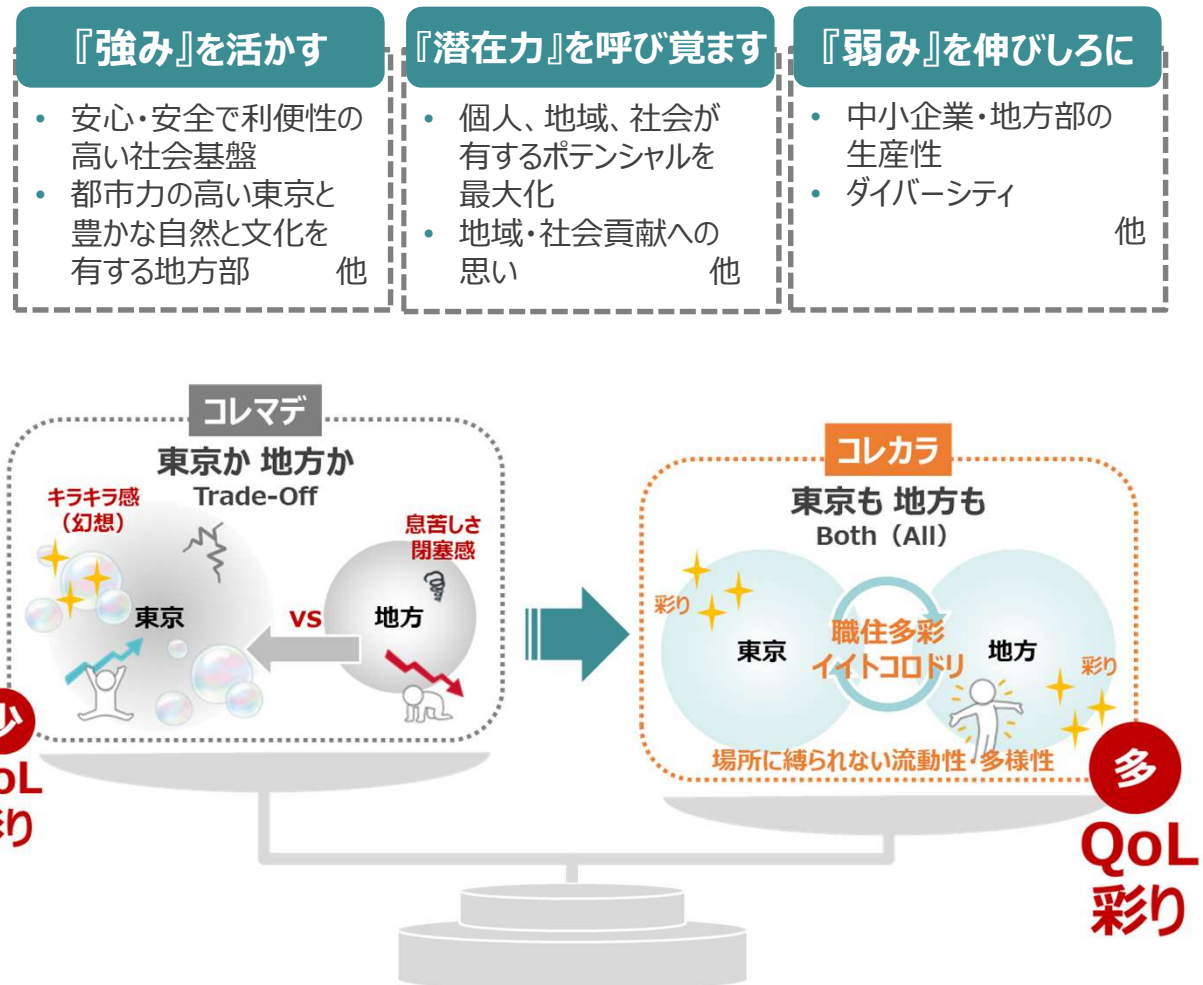


- 社会基盤の観点では、「職住多彩・イイトコロドリ改革」の実現により、「日本の力を研ぎ澄まし、世界に誇れる日本を創る」ことを目指す。

改革のコンセプト

- コロナを奇貨として、多様な選択肢を設け、流動性を高めることで地方に彩りをもたらす。
- 「東京か地方か」の二者択一の発想や、終身雇用・職住近接を前提とした画一的なライフスタイルから転換。
- 「東京も地方も」両方に多様なチャンスが存在し、両者のイイトコロを複合的に選択できる（Both）環境を整備することを通じて、彩りのある日本を創り次世代へつなぐ。

- 課題が多いからこそ「最大の機会」と捉え、日本の根本的な強みを活かして 他国に先駆けて課題を乗り越える姿を示すことで、世界に誇れる日本を目指す。
- 少子高齢化社会でも高い QoL* が実現可能な先進モデルとなる。

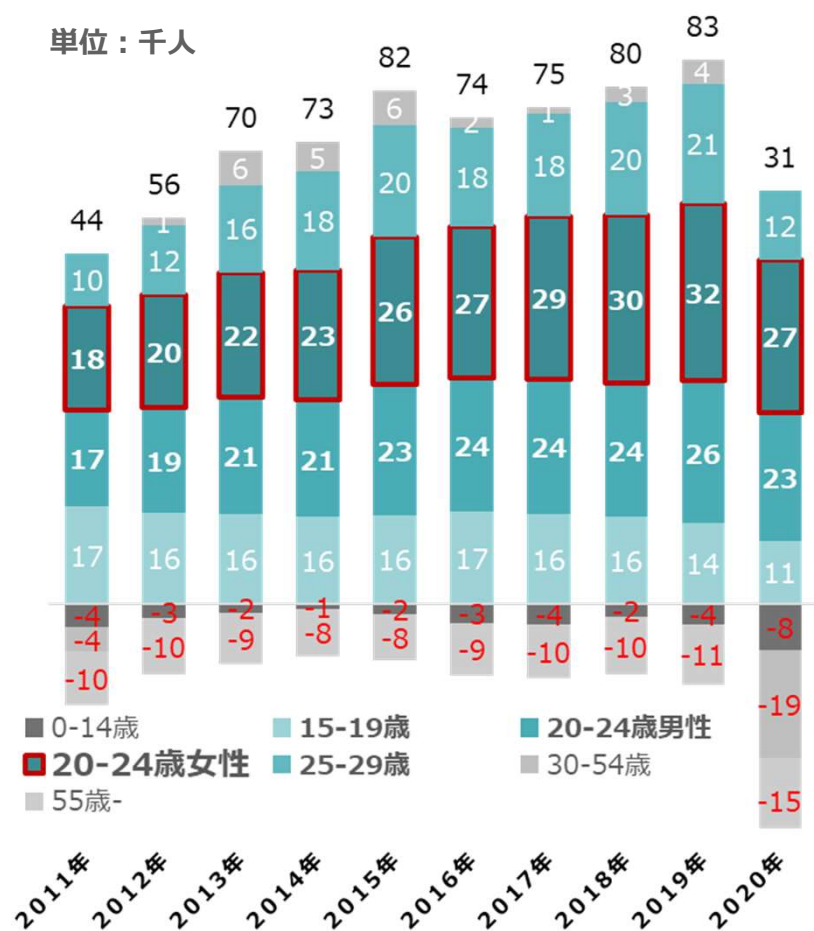


*Quality of Life

地方と都市のバランスに関するデータ（抜粋）

- ① 20代前後の層が地方から転出し、東京に流入。特に20-24歳の女性の転入超過が顕著。
- ② 東京都の中間層世帯の自由に使えるお金は全国42位。
- ③ 生産年齢人口一人あたりの成長率上位は地方ばかり。
- ④ 東京で働く人の自由になる時間は全国45位。

① 東京都の年齢別転入超過数推移



出典：住民基本台帳人口移動報告より作成

② 中間層世帯の自由裁量所得*

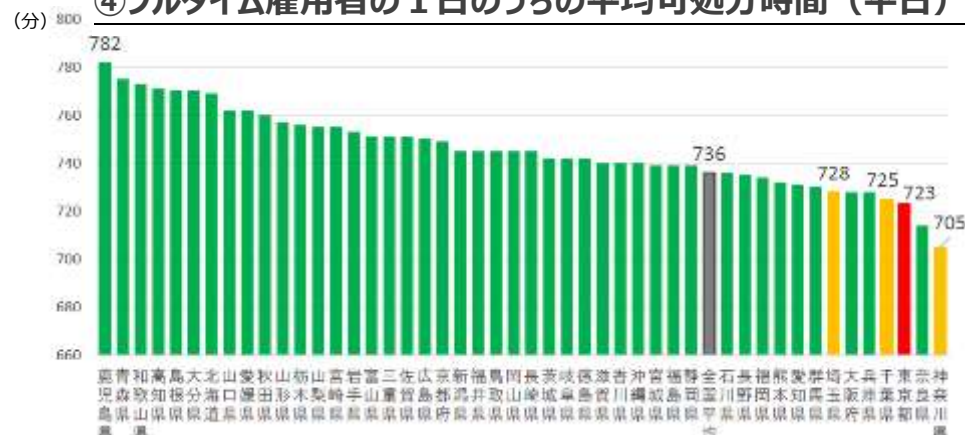
*可処分所得－基礎支出

1	三重県
2	富山県
3	茨城県
4	山形県
5	福井県
：	：
41	愛媛県
42	東京都
43	大分県
44	大阪府
45	長崎県
46	青森県
47	沖縄県

③ 生産年齢人口一人あたり成長率

1	山形県	4.98
2	秋田県	4.77
3	福島県	4.58
4	鹿児島県	4.31
5	山梨県	4.27
6	徳島県	4.25
7	栃木県	4.17
8	愛媛県	4.13
9	宮崎県	4.11
10	高知県	3.95
全国平均		2.47
47	東京都	0.36

④ フルタイム雇用者の1日のうちの平均可処分時間（平日）



※可処分時間は24時間のうち、通勤・通学／仕事／学業／家事／身の回りの用事／介護・看護／育児／買い物に係る時間を除いた時間。（具体的には、食事、睡眠、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎ、趣味・娯楽等）

出典：国土交通省 2020年11月30日 第10回 国土の長期展望専門委員会

資料2 東京一極集中の是正方策について、資料3 東京の競争力・成長戦略について

■ ファクト分析に基づく「7つの課題」から導出した、9つのアクションを提言とする。

7つの課題	アクション
1. 就学・就職で東京へ 2. 若い女性が特に流入	1 地方で女性が自分らしく働ける環境づくり 「仕事の選択肢が少ない」ことが若い女性の転出、東京一極集中の主要因。経営者の意識改革も必要！ 2 地方の女性リーダーを育成する「地方版フォーラム21」創設 フォーラム21の人脈を活用し、自身の可能性を広げ、能力を発揮できるような機会を。
3. 産業構造・労働市場のミスマッチ	3 個人と企業の関係性を進化させる「雇用シェアリング」 企業規模や所在地・性別・年齢を問わず、多彩な人生経験に繋がる“Nation Wide HR Sharing Alliance” 4 企業版ふるさと納税の新しいカタチ「ふるさと応援派遣」 ふるさと納税制度（個人版と企業版）のスキームを活かし、実際に人が地方に行って働くことで地域貢献。
4. 東京の高齢者増 5. 地方に移住しにくい 6. 地域のつながりの脆弱化	5 「地方創生休暇」で気軽に“イイトコロドリ”チャレンジ 地方に関心はあるが時間も情報もない人たちが、気軽にチャレンジできる休暇制度とプラットフォームづくり。 6 「^{かける}〇〇 × サブスク居住」で気軽に地方で自己実現 サブスクによる多拠点居住に、地域貢献や農業体験等を組み合わせ、気軽に何度でも地方とのきっかけづくり。 7 地域における「選択可能な緩やかなつながり」づくり 個人の関心や意思を基礎につなぎ、互いに手を差し伸べられる「共に在る・重層型コミュニティ」づくり。 8 高齢者の新たなつながり「デジタル・サ高住」 整備が進むサ高住と自宅をデジタルで結び、効率的にサポートしつつ、高齢者の活躍の場を創出。
7. 政治環境・国民意識	9 意識改革（固定観念を払拭し、より良い選択を自発的に行える環境づくり） トップが率先し、“ナッジ”も使った情報提供や幅広い体験の機会をつくり、地元・地域への愛着を醸成。

- 「職住多彩・イトコロドリ改革」の9つのアクションによって、場所に縛られない流動性・多様性を実現し、ひとりひとりの心の豊かさ、地域の彩りを高めていく。
- 他国に先駆けて課題を乗り越える姿を世界に示すことで世界に誇れる日本を目指す。

